

協働事業（令和2年度活動事例） 「松園リボーン：住民意見集約事業」

事業の内容

松園団地では、少子高齢化が急速に進み、小中学校の統廃合や空き家の増加といった課題が顕在化しており、地域コミュニティの活力の低下が懸念されています。

このような現状を打開し、50年、100年先を見据えた持続可能なまちづくりを進めることを目的に、令和2年3月30日に決定した内閣府の「住宅団地の再生に係るハンズオン支援（※）」を受けながら、盛岡市、住民、企業やNPO等と連携し、団地再生に関する住民意識の把握と啓発、先進事例や諸制度等の研究といったエリアマネジメント事業を実施しました。

（※）「住宅団地の再生に係るハンズオン支援」とは？

全国的に住民の高齢化が一斉に進み空き家の発生等の課題を抱えている住宅団地について、多様な世代が安心して住み、働き、交流できる場としての再生を図るため内閣府等の関係府省庁が総合的な伴走型支援を行うもので、内閣府が全国の市町村に募集した中から7地区（北海道・東北地方では松園地区のみ）を指定した。

松園団地の「再生(リボーン)」を目指して！

小学5年生以上を対象とした住民アンケート調査により、松園地区に対する現在の評価（満足度）と再生に向けて重要となる項目（重要度）を洗い出し、現状と理想のギャップを分析することができました。

また、キックオフフォーラムの開催と「松園新聞」による広報により、住民への意識啓発を行うことができました。



▲キックオフフォーラムの様子（会場：東松園小学校）

○事業のスケジュール

日程	内容	備考
令和2年9月	住民アンケート調査（小学5年生以上全員対象）の実施	回答者数：2,479名 （回収率：16.2%）
令和2年11月7日	キックオフ・フォーラムの開催	参加者：240名
令和2年12月～ 令和3年3月	ワークショップ開催準備	ワークショップは令和3年度に開催予定
通年	「松園新聞」等による松園地区住民への広報	—

【実施主体】

MATSUZONO Reborn プロジェクト研究会

【設立年月日】

令和2年3月

【代表者】

藤澤 大祐

【主な活動実績】

（平成22年）

- ・当該団体の母体となった「こーでねえと松園」がワークショップと「まつぞの探検隊」を実施、その成果等により松園の魅力をもとめた「まつぞのMAP」を作成し、全戸配布

（平成24年9月）

- ・「こーでねえと松園」が岩手県「元気なコミュニティ特選団体」に認定（令和2年3月）

- ・団体発足
- ・松園団地が内閣府の「住宅団地の再生に係るハンズオン支援」の対象に決定

【協働担当課】

都市計画課

【令和2年度補助額】

421,000円